

## 会 議 記 録

令和6年度第5回中央区子ども・子育て会議 会議録（要旨）

名 称	令和6年度 第5回 中央区子ども・子育て会議	
開催年月日・場所	令和7年2月10日（月） 午後6時30分から 中央区役所8階 大会議室	
出席者	委員	大竹智（会長）、新藤こずえ（職務代理者）、大戸秀恭、田中翼、佐藤みどり、山口晃司、上笹遼、織茂ちあき、高原友美、藤丸麻紀、太田明実、萩原裕子、箱守由記、茂木龍哉、大久保稔、渡瀬博俊、北澤千恵子
	区側出席者	福祉保健部子育て支援課長 福祉保健部保育課長 福祉保健部副参事（保育指導・特命担当） 福祉保健部子ども家庭支援センター所長 福祉保健部放課後対策担当課長 福祉保健部健康推進課長 区民部文化・生涯学習課長 教育委員会事務局学務課長 教育委員会事務局指導室長 福祉保健部子育て支援課計画推進等担当係長
配布資料	資料1-1 （仮称）中央区こども計画（第三期中央区子ども・子育て支援事業計画）パブリックコメント実施結果 資料1-2 （仮称）中央区こども計画（第三期中央区子ども・子育て支援事業計画）中間のまとめからの主な変更点 資料1-3 （仮称）中央区こども計画（第三期中央区子ども・子育て支援事業計画）最終報告（案） 資料2-1 主な事業の量の見込みと確保方策の進捗状況管理（令和5年度分） 資料2-2 個別事業の進捗状況管理（令和5年度分） 資料3-1 令和7年4月認可保育園等入園申込状況 資料3-2 今後の保育所の開設等に向けた取組 資料3-3 区立幼稚園の応募状況について 資料3-4 幼稚園施策のさらなる充実について 資料3-5 民間学童クラブの開設について	
議事の概要	1 開 会 2 議 題 （1）（仮称）中央区こども計画（第三期中央区子ども・子育て支援事業計画）最終報告（案）について （2）第二期中央区子ども・子育て支援事業計画の進捗状況の管理について ・主な事業の量の見込みと確保方策の進捗状況管理（令和5年度分）	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別事業の進捗状況管理（令和5年度分）</li> </ul> <p>3 報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和7年4月認可保育園等入園申込状況及び区立幼稚園児の応募状況について</li> <li>・幼稚園施策のさらなる充実について</li> <li>・民間学童クラブの開設について</li> </ul> <p>4 閉 会</p>
--	--

1 開 会

2 議 題

<p>(1) (仮称)中央区こども計画(第三期中央区子ども・子育て支援事業計画)最終報告(案)について事務局から資料1-1、1-2、1-3について説明が行われた。</p>	
委員	<p>公園の利用について、子ども同士の使い方が難しいと感じる。例えば、保育園児と利用時間が重なると、保育園児の後ろに並んだり譲らないといけない。運動会の練習が始まると邪魔になってしまう。このような状況だと、結果的に公園を出ざるを得なくなる。また、夕方になると、小学生が遊具で遊んでおり、待っていても小学生の目に入らないため、諦めて帰るといことが続いている。</p> <p>公園に連れていった方がよいということは聞くため、連れていきたいのだが、冬は寒すぎると遊具が冷たく、夏は炎天下で暑い。「あかちゃん天国」で遊ぶのもよいが、外の空気に触れて遊ぶのは重要である。</p> <p>監視員をつけるのは予算がかかるため、保育園児以外も遊んでいいエリアを作る、時間区切るなど、ソフト面で知恵を絞るところなのではないか。以前、他の委員の方がじゃぶじゃぶ池は保育園児が利用できなくなったとおっしゃっていたが、例えば保育園枠を作り、保育園枠の中でA保育園、B保育園は何日ということを決めてくれたらいいという発言もあった。ソフト面で工夫すれば、お金をかけずにできることはある。限られた資源をみんなで楽しく使うために、考えてもらえると良い。</p>
会長	<p>公園利用について区民が感じている意見であった。事務局は、意見を踏まえて、今後の施策推進に向けて検討してほしい。</p>
委員	<p>パブリックコメントが計129件あったが、中央区としての考え方も含めて、資料1-1は公表するのか。</p>
子育て支援課長	<p>資料1-1をパブリックコメントの結果としてホームページに公表する。</p>
委員	<p>理解した。そのうえで、例えば93番の意見について、区の考え方には「計画や施策に子どもの声を反映させるよう機会を設けていきます」と書いてあるが、今回の小学生以下の意見6件に対して、計画に反映する(◎)のものが1件もない。</p> <p>客観的に反映することが難しいものがあることは理解できるが、やればできるものも2つあると感じた。1つ目は43番の江戸バスの話である。区の考え方に「利用者の利便性を考慮」するとあるが、小学生以下の利便性を考慮するのであれば、半額や無料でもよいと思った。また、区の考え方に「他の自治体の状況等を踏まえ」と書いてあるが、中央区の江戸バスであるため、他の自治体の状況を踏まえる必要はないと思う。</p> <p>2つ目は公園の話である。区の考え方に「整備については、管理人が常駐し公園への出入りを監視する必要があることから、困難なため、対応できません」とあるが、人件費はかかるが管理人を常駐させて対応すればよいのではないか。一区民として読むと、受け止める気がないと感じる。</p> <p>資料1-1の状態では区民に公開するのであれば、言い回しや見せ方を工夫する</p>

	<p>余地があると思う。</p>
会長	<p>子どもたちが意見して良かったというような実感が持てる説明、納得できる説明をすることが重要である。予算等の様々な事情があると思うが、検討してほしい。</p>
委員	<p>20番と95番に私立や私学の存在が書いてあるが、中央区の教育は非常にスタンダードを提供している印象がある。多様性の時代の中で、個性豊かに育つ我が子が、スタンダードに合わないとなると公立に通うことができなくなる。</p> <p>今の区の施策では、区立が嫌で他に通わせる人は知らないというスタンスに見える。しかし、嫌で出ていったつもりはなく、我が子の良さを伸ばし、足りないところを補充したいと思って入れたところが区外であっただけである。学校が区外であると中央区からの補助金は出ないが、学校がある区に住んでいれば補助が出る。中央区に住んで住民税を払っているため、区外の教育を受けているからといって、補助をなくさないでほしい。</p> <p>また、適応教室「わくわく21」の運営について書いてあるが、「浮きこぼれ」に対応していないと感じる。「浮きこぼれ」も深刻な問題なので、不登校で括らないでほしい。</p> <p>私学に入れているのも、豊かだからではなく、そのための費用を必死に捻出している。このようにして子どもを不登校にさせていない人が多くいるのを知ってもらった上で、浮きこぼれ対策への回答がほしい。ひきこもり対策も足りないと思う。</p>
会長	<p>同じような親、家庭の声があるということで、事務局で受け止めて回答を検討してほしい。</p>
委員	<p>45番の学校がとにかく狭い、遊ぶ場所がない、教室が狭いという小学生以下の子どもからの意見に対して、区の考え方は分かるのだが、私が担当している小学校は本当に教室がなく、子どもが多くて狭い。</p> <p>体育祭のような行事も学年ごとになり、子どもが異学年を通して体験できる行事が開催できなくなっている。学区の変更や新設校という方向で検討していただく未来があればよい。</p>
委員	<p>今の学校の狭隘化の話と近いが、パブリックコメントの66番、67番にプレディ、プレディプラスについての意見がある。</p> <p>最初は多くの子どもが来たが、多すぎて行かない子が出てきて、それでバランスが取れるということが起きていると書かれている。私が委員をしている小学校でも、場所に対して登録人数、来ている人数が多く、学校全体を使って工夫して対応しているということである。</p> <p>未設置の学校に展開をしても、そういった問題が継続するということも含めて、子どもたちが多く参加できる環境づくりを継続してほしい。</p>
委員	<p>保育事業の確保方策について、私は日本橋地域担当だが、先日「あかちゃん天国」に行くと、保育園に入れなかったという話をしていた。昨年はそのような話</p>

	<p>をあまり聞かなかったが、今年は保育園に8つ落ちたという人もいた。しかし、私が運営委員をしている私立の認可保育園では、昨年までは大体定員に満たない、ひどい時には2割にも満たないということがあった。</p> <p>日本橋地域は、月島地域と比べると人口の増は若干頭打ちであり、保育園を作りすぎたと言っていた。しかし、今年から様相が変わっていると肌で感じている。</p>
保育課長	<p>現在、第1回目の申込を締め切り、利用調整の結果通知を発送したところである。日本橋と京橋地域については、0～2歳児に空きはある。しかし、月島地域の晴海、勝どきエリアについては、昨年は1歳児中心だったが、今年は0～2歳児について、空きがない状況になっている。地域の中のエリアによっても差がある。後ほど、1回目の利用調整の結果について説明する。</p>
委員	<p>プレディについて、特認校へのプレディの開設準備を進めていくというのは、すごいと思った。しかし、168ページには赤い字で5と書いてあるだけでそれが見えてこないため、確保方策の考え方のところ、全校開設を目指して頑張っているということをアピールしてもよいと思う。令和8年度以降に特認校が増えるのに、想定利用登録者数が一定となっているが、増えるのではないか。利用者数が増えるから特認校にも設置するというのをアピールすると良いと思う。</p>
会長	<p>本日の議論をもって、計画の最終案を取りまとめさせていただく。みなさんのご意見を踏まえ、最終的な計画の確認、了承については、私のほうに一任させていただければと思うが、よいか。</p> <p>(一同了承)</p>
<p>(2) 第二期中央区子ども・子育て支援事業計画の進捗状況の管理について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 主な事業の量の見込みと確保方策の進捗状況管理（令和5年度分）</li> <li>・ 個別事業の進捗状況管理（令和5年度分）</li> </ul> <p>事務局から資料2-1、2-2について説明が行われた。</p>	
委員	<p>人と予算に限りがあるため、今後は何かを削減していく必要もあると思う。例えば方向性3の少年少女スポーツ教室について、事業の目的及びフィードバックはどのようになっており、継続する判断はどうしているのか。また、この事業は無料で参加できるのか。</p>
子育て支援課長	<p>事業の所管課への確認が必要だが、スポーツ事業は、パブリックコメントでも機会を増やしてほしいという意見があった。一方、同じくパブリックコメントの中では、人や予算には限りがあるので、継続するもの、やめるものの判断も必要という意見もあった。</p> <p>事業へのニーズが高まっていることは事実なので、意見は所管課にも伝える。重点を置いて実施することと、目的を明確化することは大事だと考える。</p>

### 3 報告事項

- ・ 令和7年4月認可保育園等入園申込状況及び区立幼稚園児の応募状況について
- ・ 幼稚園施策のさらなる充実について
- ・ 民間学童クラブの開設について

事務局から資料3-1、3-2、3-3、3-4、3-5について説明が行われた。	
委員	資料3-2のさくらさくみらい晴海の増床による定員拡大は、現在は2歳児までのクラスで、進級する時に、「晴海こども園」か「勝どき保育園」かを抽選していたと思うが、増床で3歳児クラス以降も同じ場所で保育できるようになると、他園への抽選というのは、令和8年4月のタイミングからなくなるのか。
保育課長	定員拡大の話が出る前に入所した人は、今の選択肢に加え、そのまま3～5歳も進級できるという対応が取れるようにしたいと考えている。定員拡大の話が出てから入所した人は、そのまま持ち上がるという対応を考えている。
委員	さくらさくみらい晴海は増床になるが、今は隣にスペースがないと感じる。どのような予定か。
保育課長	隣のスペースが令和8年4月からの増床のタイミングで空く予定である。
委員	新たに設置される民間学童クラブのキッズクラブ・日本橋の料金についてである。以前、晴海地区にベネッセの民間学童クラブができた時に3万円台ということで、非常に安いと思った。しかし、今回はその半額以下の料金ということで、ちゃんと保育ができるか心配だが、単に企業努力で下げることができているのか。
放課後対策課長	キッズクラブ・日本橋については、運営事業者がNPO法人ということも、料金が安い一因と考えている。ベネッセは営利企業であり、自分たちの教材を使っている、その教材費等の金額もある程度かかっていると思う。 今回の誘致に当たっては、事業計画等を出していただき、その中身について適正であるかを判断しているため、金額が低いから質が悪いということではない。基準に基づいた職員配置、有資格者の配置を行うことになっているため、心配ないと考えている。
委員	キッズクラブ・日本橋について、1つ目は、事業計画を出していただいたということだが、何社の応募があったのか。2つ目は、開設した同じ民間学童クラブと料金が違うということだが、区は定員や在籍数、平米数など、どのような基準で補助を出しているのか。3つ目は、民間学童クラブは去年も定員割れをしていたが、今回キッズクラブ・日本橋については、40名中19名の申込という状況とのことだが、他の民間学童クラブの今年の申込状況を教えてほしい。
放課後対策課長	今回の民間学童クラブの応募は、キッズクラブ・日本橋を運営するNPO法人1社のみでの申込であった。1社ではあったが、提案書について選定委員会で採点して、合格の水準を上回っているため、決定した。 民間学童クラブの補助については、運営費について基本的に在籍児数に応じて国や都の補助金額が変わってくる。また、区独自の補助として、人数に関わらず家賃補助を行っている。 また、民間学童クラブの応募状況について、令和7年4月入所分は、ベネッセ学童クラブ月島が定員40名のところ32名、ベネッセ学童クラブ晴海が定員88名のところ47名の申込となっている。しかし、これは公設の学童クラブと併願可能の数なので、この数がすべて入所するというわけではない。

4 閉会